

# 日本小児心身医学会

## 1. 学会の会員構成等

785名

小児科医：580名

精神科医：23名 残りは心理士・教員など

(1)一般の小児科医・精神科医

約200人

(2)子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医

約300人

(3)子どもの心の診療に専門的に携わる医師

約50人

## 2. 対象疾患領域等

- ・心身症（摂食障害など）
- ・不登校
- ・神経症、発達障害など

## 3. これまでの取り組み

研修会（年1回） 50～200人

○平成15年度 第11回研修会

I「子ども虐待のトピック」

II「子どもに対する統合的心理療法」

○平成16年度 第14回研修会

「子どもの人権を守るために」

○平成17年度 第15回研修会

「さまざまな問題を抱える子どもを支えるには」

○平成18年度 第16回研修会

「多施設共同研究合同報告会」

イブニングセミナーなど50～100人

（学会独自の専門医は考えていないが、日本小児科学会と日本心身医学会の両学会の専門医を持つ者が一応専門医と考えている）

○平成15年度 第21回学術集会

小児心身医学における治療体性の確立を目指して

○平成16年度 第22回学術集会

小児心身医学における合理性と心の神秘性の融合

○平成17年度 第23回学術集会

地域で育むこどもの心—教育・福祉・保険・医療の連携の下で—

○平成18年度 第24回学術集会

小児心身症と軽度発達障害

平成15年度の年間受講者： 約400人

平成16年度の年間受講者： 約400人

平成17年度の年間受講者： 約500人

平成18年度の年間受講者： 約500人

※年間受講者は、地方会も含めて、研修会を受けた者の合計

#### 4. 平成18年度の取り組み

上記のこれまでの取り組みに記載したものの以外として

1. イブニングセミナーとして「個人情報のかえ方」を精神科医、法曹界の方々も迎えて勉強を行った。
2. 地方会はこれまでの開催地域に加えて、東北地方会が発足した。これで現在は北海道、東北、北陸・東海、関西、中四国、九州・沖縄の6地域となった
3. 起立性調節障害の治療指針が発刊された
4. 不登校の指針もほぼ発刊にこぎつけた

#### 5. 今後の取り組み

～現在の活動～

起立性調節障害、摂食障害、不登校に加え、診療に関する医師の心身の健康性、EBMの蓄積、ホリスティック医学、災害医療の8部門に関して、多施設間での共通認識をもち、診断基準から診療指針の作成を目指した活動を平成14年から順次開始している。

現時点ではアンケート調査の段階から、診療指針の具体的作成の段階まで、各班で異なっているが、指針を作成する前後から研修会を行い、その完成度をめざし、普及と認識の徹底を図っていく予定である。

現在は、上記の「起立性調節障害研究班」の指針発刊に加えて、不登校が平成19年度に発刊され、摂食障害も発刊される予定である。

上に挙げた現在の活動に基づき計画を行う予定

○平成19年度の計画

- ・現在の活動の中で、上記のように不登校と摂食障害に関しての指針を発行し、それに基づく研修会を開く
- ・学会で子どもの心の二次診療担当医のリストアップ作成
- ・子どもの心の研究に関する学術支援研究講習会のビデオ教材の作成

○平成20年度の計画

- ・現在企画中の活動が全て終了する予定

○平成21年度、平成22年度の計画

- ・現時点では未定